

品質で選ばば ——
朝日フェンス

ベーシックな美しさと強さ

朝日PCフェンス

シリーズ
SERIES

P
C

WIRE NET & FENCE



朝日スチール工業株式会社

<https://www.asahi-fence.co.jp>



Contents

仕様・特長 _____ 3

参考 溶融亜鉛めっきの耐食性 _____ 4

PCフェンス

A型 標準タイプ _____ 5

忍び返し付 _____ 7

門扉

引戸

金網(規格・カラー) _____ 8

参考 スプリングネット

設計上のご注意

PC高尺フェンス

PC-S4~S10 _____ 9

(H4160~H10080)

くくり門扉 _____ 11

金網(規格・カラー) _____ 12

設計上のご注意

組立時のご注意

PCバックネット

下部網なし _____ 14

全面網張り _____ 15

金網(規格・カラー) _____ 16

設計上のご注意

組立時のご注意

参考平面図

施工要領 _____ 17



PC-A1800



PC-A1800忍び返し付(曲型)



PC両開き門扉 H2000×W4000忍び返し付(直型)



1 PC-A1200(塗装品)



PC-S4

パイプと菱形金網で構成されたシンプルな構造

力学的に強度の高いパイプ構造は、同時に飽きのこない美しさも生み出します。そのベーシックな外観は周囲の多様な環境に自然に溶け込みます。また仕上がり形状は、内、外どちらから見ても同じで設計も容易。時代を超えたスタンダードなスタイルです。

秀でた耐震性

コンクリートブロックべいと比べて軽量で、倒壊しにくい構造です。地震等の災害時、高い安全性を確保します。

金網に「高耐食性新亜鉛合金めっき線」**タフガード®マイルド**を新規ラインナップ。(対応規格：φ2.6×56mm、φ2.6×50mm、φ2.6×40mm)

溶融亜鉛めっきに比べて色調は暗く、時間経過とともに酸化皮膜が成長すると、次第に灰黒色の落ち着いた色合いに変化します。

※「タフガード」は、日本製鉄株式会社の登録商標です。
※「タフガード」は、日本製鉄株式会社が開発した亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっき線の商品名です。

耐候性にすぐれる溶融亜鉛めっきを使用

材料は全て溶融亜鉛めっき加工を施しています。多様な環境に対し、長年の使用においてすぐれた耐候性を発揮します。(右頁参考資料参照)

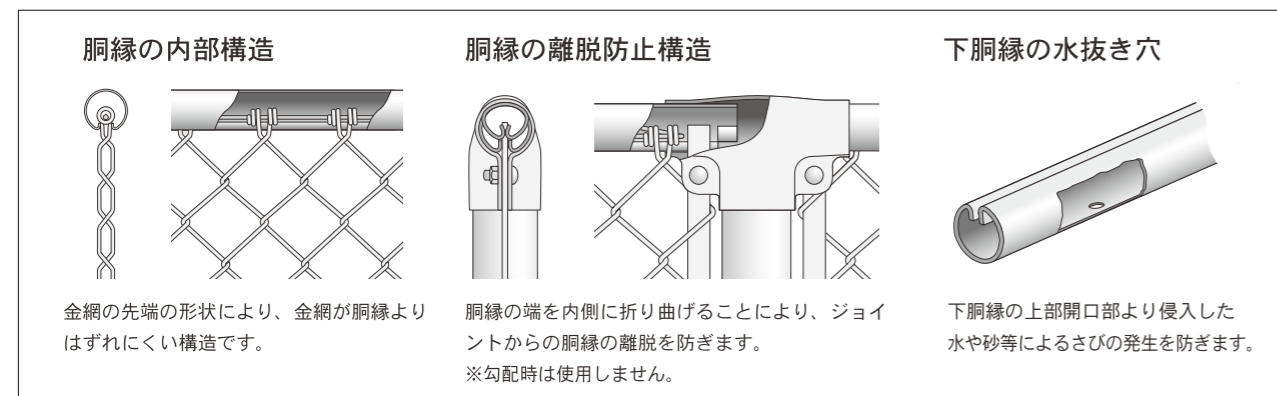
亜鉛めっき製品は、屋外に積み重ねたままの保管やシート掛けしたままの保管をすると、雨水との長時間の接触や多湿による結露などにより白さびが発生し、製品外観の低下につながる可能性があります。ただし、白さびによる耐食性への影響はほとんどありません。(下記 JIS H8641参照)



JIS H8641 3.2 めっき表面に見られる諸現象 i) 白さび 保管中に雨水の付着、結露などによって生じた塩基性炭酸亜鉛などの腐食生成物。白さびによるめっき皮膜の消耗はわずかで、耐食性にはほとんど影響はない。

独自の技術と工夫によるすぐれた機能性

独自の工夫による金網の先端部や網張りバー、胴縁の端形状等が金網や胴縁のはずれを防ぐほか、下胴縁にあけた水抜き穴が水や砂等によるさびの発生を防ぎます。また、安全追究の面から角張った部分を極力なくした部材や、破損個所のみでの分解修理を可能にするスパンのユニット化等、随所に朝日の技術が盛り込まれています。



強度試験 (弊社テストによる)

JIS A6518 (ネットフェンス構成部材) JIS A6513 (金属製格子フェンス及び門扉) の鉛直・水平荷重試験をゆうゆうパス。パネルは鉛直荷重1470N (150kgf)、水平荷重1470N (150kgf)、支柱は水平荷重490N (50kgf) [H1500mm超えるものは588N (60kgf)] で、緩み・外れを認めず。

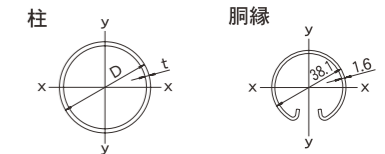
風圧力での設計製品

昭和57年改正の建築基準法・同施行令の計算基準に従っています。

柱・胴縁 断面性能 材質

柱 …… JIS G3444 一般構造用炭素鋼鋼管STK400、STK500
胴縁 …… JIS G3101 一般構造用圧延鋼材SS400

項目単位 名称	外径 D mm	厚さ t mm	断面積 cm ²	単位質量 kg/m	断面二次モーメント I cm ⁴		断面二次半径 i cm		断面係数 Z cm ³	
					I _x	I _y	i _x	i _y	Z _x	Z _y
柱	50.8	1.6	2.473	1.94	7.49	1.74	2.95			
	50.8	2.3	3.504	2.75	10.3	1.72	4.07			
	60.5	2.3	4.205	3.30	17.8	2.06	5.90			
	60.5	3.2	5.760	4.52	23.7	2.03	7.84			
胴縁	38.1	1.6	1.757	1.41	2.58	3.08	1.21	1.32	1.43	1.62



参考 溶融亜鉛めっきの耐食性

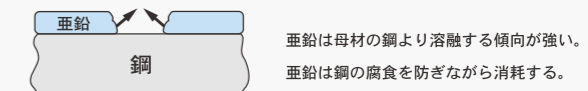
亜鉛は中性またはそれに近い環境のもとで、すぐれた耐食性を発揮することはすでに周知のとおりです。これは表面にできた腐食生成物が、緻密な保護膜を作ってその後の腐食の進行をさまたげるからです。溶融亜鉛めっきでは、亜鉛は鉄と反応して鉄鋼素地の上に鉄と亜鉛の合金層を形成し、強固に密着した厚い皮膜となり、さらにその上に亜鉛皮膜を作って鉄鋼を保護します。

1.亜鉛皮膜の腐食防止機能

亜鉛皮膜には次の二つの機能があり、他の皮膜に比べて大きな特色となっています。

- (1) 鉄鋼の上に密着性の良い連続した皮膜を作り、外部の腐食環境から鉄鋼を遮断する遮閉帯としての機能を果たすこと。
- (2) 亜鉛皮膜が破損して鉄鋼素地が露出しても、その面積が一定の大きさに達するまではその周囲の「亜鉛の犠牲的保護作用」によって腐食から鉄鋼を保護すること。

「亜鉛の犠牲的保護作用」は亜鉛の電気科学的性質にもとづくものです。他の防食皮膜、例えばニッケル、クロムのような金属皮膜、エナメル、ペイントのような塗装皮膜は、単なる遮閉帯としての働きをするだけで亜鉛皮膜のような犠牲的保護作用はありません。



2.大気中の耐食性

大気中の亜鉛めっきの耐食性はすぐれています。同一条件で使用する場合のめっきの寿命は、そのめっきの付着量にほぼ比例します。また大気中の環境が変化すると、めっきの寿命も変化します。

■使用環境別亜鉛腐食速度■ <JIS H8641より>

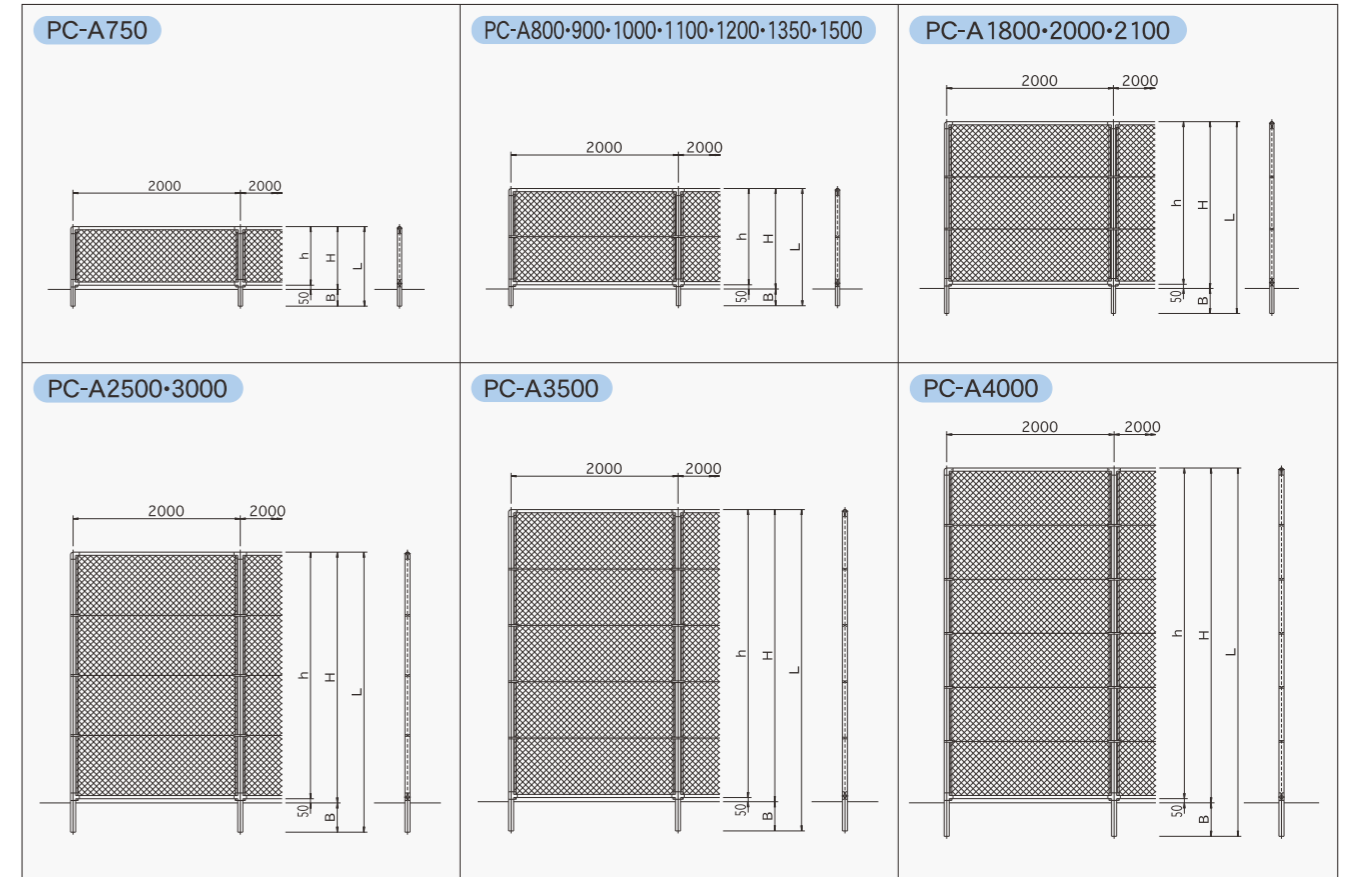
ばく露試験地域	平均腐食速度 (g/m ² ・年)	耐用年数 (年)
都市工業地帯	8.0	62
田園地帯	4.4	113
海岸地帯	19.6	25

1.上記の数値は、日本溶融亜鉛鍍金協会による10年間(1992年～2002年)の大気ばく露試験結果から計算した。
2.ばく露地：都市工業地帯は横浜市鶴見区、田園地帯は奈良県桜井市桜町倉橋、海岸地帯は沖縄県中頭郡中城村で試験を行った。
3.耐用年数は亜鉛付着量550g/m²の場合であって、めっき皮膜の90%が消耗するまでの期間を計算した。
4.耐用年数は施工や構造、立地条件等により大差があるので上記データは耐用年数を保証するものではありません。海岸地帯でも干満帯・飛沫帯は適用不可です。

※また亜鉛には、すぐれた耐食性に加え、抗菌・抗ウイルス性能があることが分かっています。



※支柱付も製作できます。お問い合わせください。



※各規格の寸法、参考基礎寸法は下記の表を参照ください。
※詳細については別刷標準図集を参照ください。

A型 規格・寸法・参考基礎 (沖縄地区は除く。)

呼称	寸法		高さ (mm)			支柱 (mm)			単位質量 (kg/m)	参考基礎寸法 (mm)	
	(H)	(h)	規格	(L)	埋込 (B)	金網規格		金網規格			
						φ2.6×56 φ3.2×56	φ2.6×40 φ3.2×50	φ3.2×40		φ4.0×56	
A 750	750	700	φ50.8×1.6	950	200	6.4	幅×奥行×深さ	幅×奥行×深さ	180×180×450	180×180×450	
A 800	800	750	"	1000	"	6.8	"	"	"	"	
A 900	900	850	"	1100	"	7.2	"	"	"	"	
A 1000	1000	950	"	1200	"	7.6	"	"	"	"	
A 1100	1100	1050	"	1300	"	8.0	"	"	"	"	
A 1200	1200	1150	"	1400	"	8.4	"	"	"	"	
A 1350	1350	1300	"	1600	250	9.0	"	"	"	"	
A 1500	1500	1450	φ50.8×2.3	1750	"	10.3	"	"	"	"	
A 1800	1800	1750	"	2100	300	11.8	200×200×450	250×250×450	200×200×450	250×250×450	
A 2000	2000	1950	"	2300	"	12.7	250×250×450	250×250×500	250×250×450	250×250×500	
A 2100	2100	2050	"	2400	"	13.2	"	"	"	"	
A 2500	2515	2465	φ60.5×2.3	2865	350	16.1	300×300×500	300×300×600	300×300×500	300×300×600	
A 3000	3000	2950	φ60.5×3.2	3350	"	20.3	300×300×600	350×350×600	300×300×600	350×350×600	
A 3500	3500	3450	φ60.5×3.2 (補強入り)	3850	"	24.5	400×400×600	400×400×650	400×400×600	400×400×650	
A 4000	4000	3950	φ60.5×3.2 (補強入り)	4400	400	28.2	500×500×900	550×550×900	500×500×900	550×550×900	

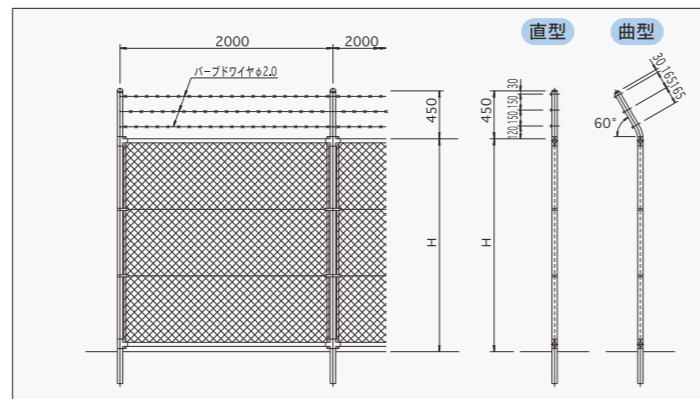
※風圧力での設計製品です。(昭和57年改正の建築基準法・同施行令の計算基準に従っています。)
※地耐力98kN/m²[10t/m²] (長期)の場合のコンクリート打ちの参考基礎寸法です。地耐力が異なる場合は弊社までご相談ください。
※(L)の寸法は支柱パイプ長さにジョイントによる高さ加算分(45mm)を含めた長さです。
※単位質量は、金網規格φ3.2×56mm(300g 亜鉛めっき鉄線)を使用した場合のもので、
※忍び返し付の基礎寸法は、A2100・A3000のみ金網規格によらずφ3.2×40mmの寸法にしてください。



忍び返し付



PC-A1800忍び返し付(直型)

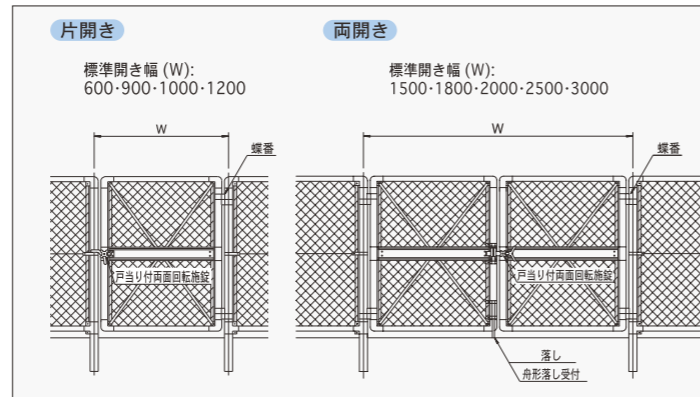


※バードワイヤφ2.0は、めっき線です。色付きではありません。
 ※バードワイヤのタルミを少なくするためにフック座金を採用しています。
 ※忍び返し付の場合、上部ジョイントは下部ジョイントと同一のものを使用します。
 ※忍び返し付の場合、上胸線は下胸線と同一寸法となります。
 ※詳細については別刷標準図集を参照ください。

門扉



PC片開き門扉 H1200×W1000

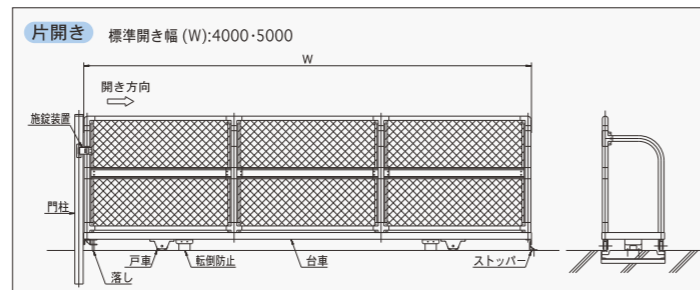


※施設部の遊びにより、閉時でも門扉は若干前後に動きます。
 ※参考基礎寸法は、価格表を参照ください。
 ※W6000をこえる門扉についてはお問い合わせください。
 ※詳細および、他の規格の門扉については別刷標準図集を参照ください。

引戸



PC片開き引戸 H1200×W4000



※片開きW6000、両開きについては別刷標準図集を参照ください。
 ※門柱不要の場合お問い合わせください。
 ※門柱を設けない場合、施設は内側の落しで行います。
 ※参考基礎寸法は、価格表を参照ください。
 ※詳細については別刷標準図集を参照ください。
 ※レールはさび止め塗装仕上げです。特注品として溶融亜鉛めっき仕上げも製作できます。

引戸使用上の注意

- 引戸使用の際には必ず転倒防止金具の取り付けを確実にし、転倒防止効果を確認してください。
- 引戸用レール溝には必ず排水溝を設けたうえ、適宜点検し、溝内の土砂・ゴミ等を取り除いてください。水や土砂等がたまった状態ではレールが早くさびたり、凍結等により引戸が正常に作動しなくなる等の恐れがあります。
- 開閉時には手足等を挟まないよう注意してください。また、移動方向に障害物がないことを確認してください。
- 引戸本体をゆすったり、乗ったり、寄りかかたりしないでください。
- 開閉終了時には必ず落とし棒にて引戸本体を固定してください。
- 引戸に看板・防風シート等、空気抵抗が生じるものを取り付けしないでください。
- その他不明な点はお問い合わせください。

PCフェンス 金網 (規格・カラー)

完全式菱形金網 (JIS G3552準拠)

金網種類	300g 亜鉛めっき鉄線	400g 亜鉛めっき鉄線	タフガード®マイルド スプリングネット 亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきハガネ鉄線	スプリングネット カラーハガネ鉄線 (300g/m以上めっきカラー線)	サンカラー鉄線 (3種めっきカラー線)	ビニル被覆亜鉛めっき鉄線
規格 (mm)	φ3.2×56・φ3.2×50 φ3.2×40・φ4.0×56	φ3.2×56・φ3.2×40 φ4.0×56	φ2.6×56・φ2.6×40	φ2.6×56・φ2.6×40	φ3.2×56・φ3.2×50 φ3.2×40	φ3.2×56・φ3.2×50 φ3.2×40・φ4.0×56
カラー	めっき色		<カラーハガネ鉄線・サンカラー鉄線・ビニル被覆線> <カラーハガネ鉄線・サンカラー鉄線のみ>			

※テニスコートに使用の場合には、網目40mmをご使用ください。(網目50mmを超えるとボールが抜ける恐れがあります)
 ※金網選定の際には、スリムで高強度な「スプリングネット」の使用をおすすめします。スプリングネットについては下記の資料を参照ください。
 ※塗装品(特殊)に同名称のカラー金網を組みあわせる場合、金網部分と鋼材部分の色相が異なる場合があります。

参考 スプリングネット

抗張力の高い亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきハガネ鉄線 および 400g 亜鉛めっきハガネ鉄線、カラーハガネ鉄線(300g/m以上めっきカラー線)を使用し、高度の技術により製造された、スプリングのように強靱な金網がスプリングネットです。同じ線径の一般品と比較すると、約2倍の高い強度が得られます。

1. 金網の強度は抗張力に比例

φ2.6mmのスプリングネットの抗張力は、同じ線径の一般品と比較すると約2倍になり、一般品のφ3.2mmの約1.3倍の強度を持つことになります。

2. 金網がスリムであればフェンスは強くなる

φ2.6mmのスプリングネットは軽量で、受圧面積も小さく抑えられます。よって、柱や胸線への負担を軽減できるうえに風圧による負担も小さくなるので、フェンス全体として強くなることになります。
 また、線径が細いことにより見通しが良くなるので、駐車場や球場スタンドネット、バックネットなどに適しています。

■線材の抗張力比較■ (N/mm²)

線径 (mm)	スプリングネット		亜鉛めっき鉄線 3種~7種
	亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきハガネ鉄線 400g 亜鉛めっきハガネ鉄線	カラーハガネ鉄線 ※	
φ2.6	850~1050	800~1050	290~540
φ3.2	-	-	290~540
φ4.0	-	-	290~540

※カラーハガネ鉄線は、300g亜鉛めっきハガネ鉄線の上にカラー焼付塗装をしたものです。

■金網の重量比較■ (kg/m²)

線径 (mm)	スプリングネット		亜鉛めっき鉄線	
	亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきハガネ鉄線 φ2.6×56mm	400g亜鉛めっきハガネ鉄線 φ2.6×56mm	φ3.2×56mm	φ4.0×56mm
φ2.6	1.58	1.58	2.37	3.65

■金網の受圧面積係数比較■

線径 (mm)	スプリングネット		亜鉛めっき鉄線	
	亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきハガネ鉄線 φ2.6×56mm	400g亜鉛めっきハガネ鉄線 φ2.6×56mm	φ3.2×56mm	φ4.0×56mm
φ2.6	0.087	0.087	0.106	0.129

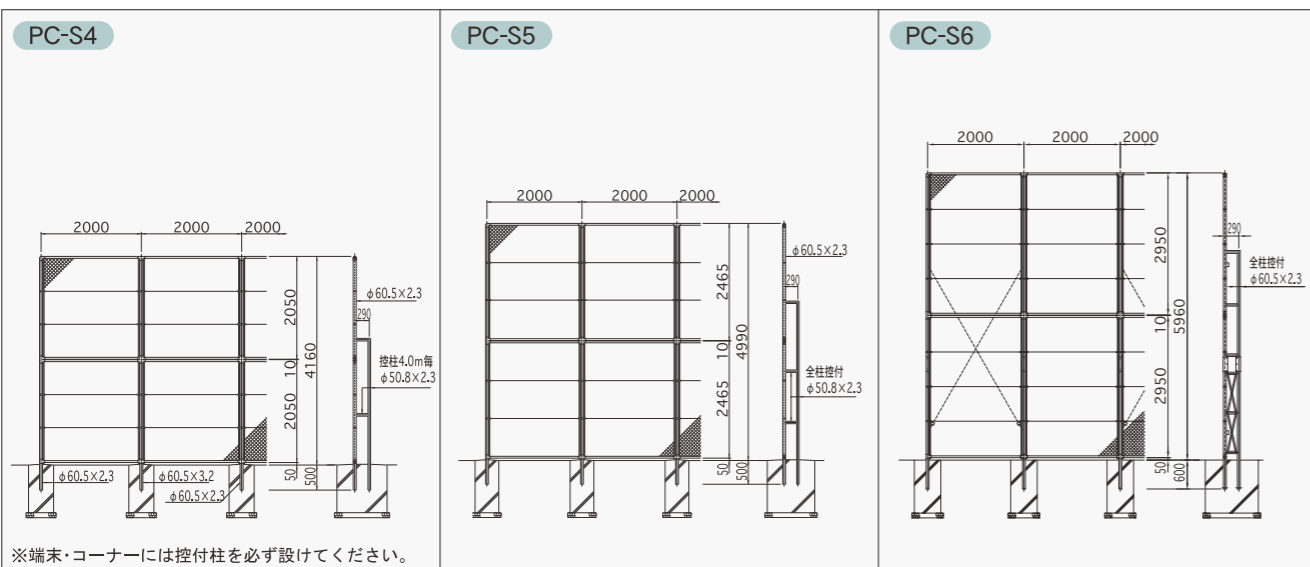
PCフェンス 設計上のご注意

- ①端尺スパン、コーナーおよび勾配については特にご指示ください。
- ②柱、胸線、網張りバーの外装はJIS H8641(溶融亜鉛めっき)に示すHDZ40、ジョイント、ボルト・ナットはHDZ35を標準とします。
- ③鋼材関係は、めっきの上に高耐候性樹脂粉末塗装もできます。ご相談ください。
- ④足場等の関係でナット側から施工できない場合は、ボルト頭側から施工できる六角ボルト・ナットをご用命ください。
- ⑤ご使用の前に裏表紙の『注意』の項目をご覧ください。
- ⑥積雪地用フェンス・特殊バックネット・高速道路立入防止柵・防衛施設タイプフェンス・空港フェンス(場周柵)・有刺フェンスについては、弊社までご相談ください。

PC-S4~S10 (H4160~H10080)



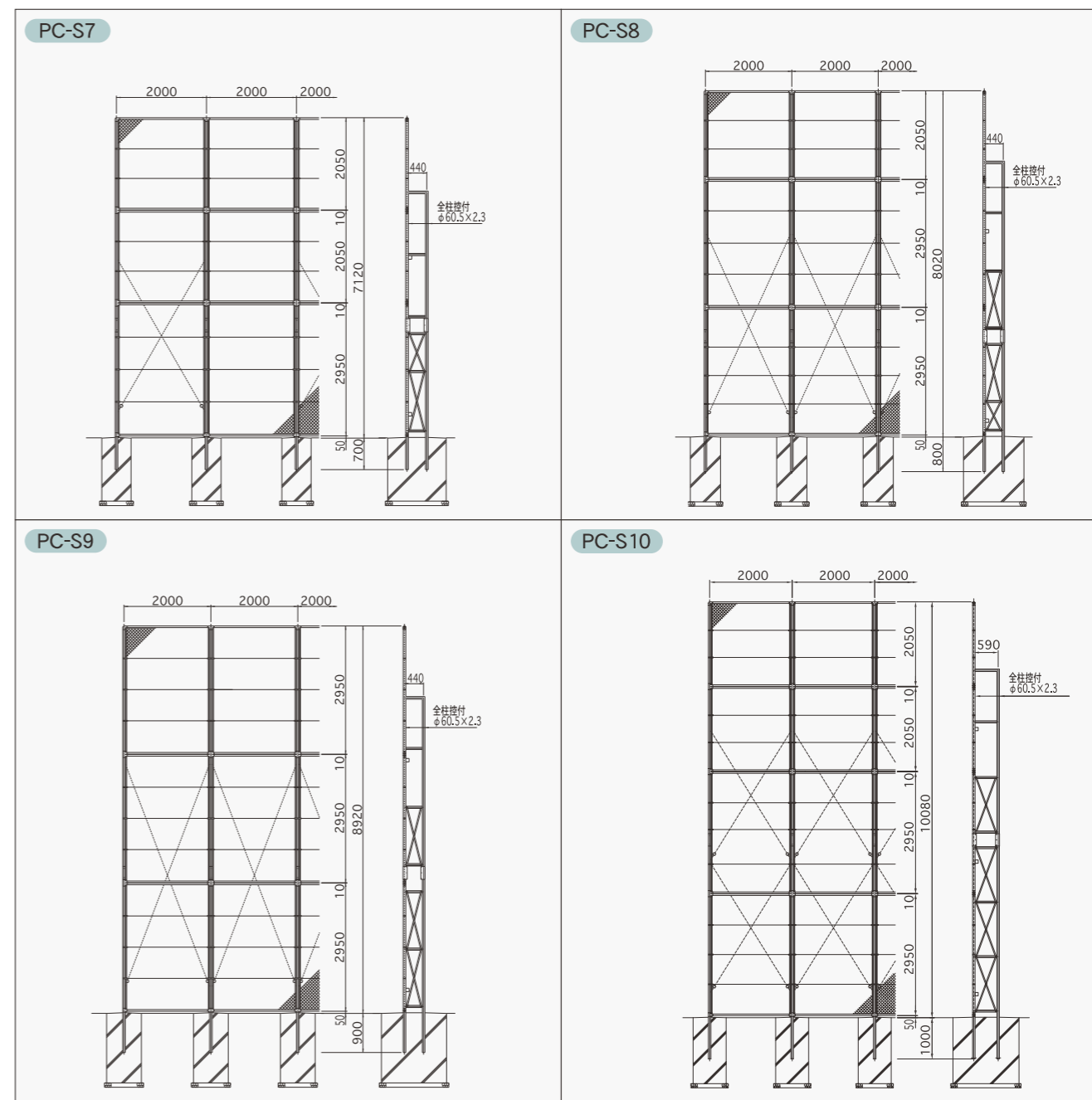
PC-S5 (塗装品)



※端末・コーナーには控付柱を必ず設けてください。

※基礎天端は、水勾配処理を行ってください。

※各規格の寸法、参考基礎寸法は右ページの表を参照ください。 ※詳細については別刷標準図集を参照ください。



※基礎天端は、水勾配処理を行ってください。
 ※各規格の寸法、参考基礎寸法は下記の表を参照ください。
 ※詳細については別刷標準図集を参照ください。

規格・寸法・参考基礎 (沖縄地区は除く。)

呼称	高さ (mm)	主柱 (mm)		控柱 (mm)			参考基礎寸法 (mm)				
		規格	全長	埋込	規格	埋込	控間隔	金網規格 φ2.6×50 φ2.6×40		金網規格 φ3.2×40 φ4.0×50	
								控柱なし	控柱あり	控柱なし	控柱あり
S 4	4160	控柱なし φ60.5×3.2 控柱あり φ60.5×2.3	4660	500	φ50.8×2.3	500	290	幅×奥行×深さ 500×500×900	幅×奥行×深さ 500×950×900	幅×奥行×深さ 500×500×950	幅×奥行×深さ 500×1000×950
S 5	4990	φ60.5×2.3	5490	"	"	"	"	-	500×1000×1000	-	500×1000×1100
S 6	5960	"	6560	600	φ60.5×2.3	600	"	-	550×1100×1100	-	600×1100×1200
S 7	7120	"	7820	700	"	700	440	-	600×1300×1300	-	650×1300×1400
S 8	8020	"	8820	800	"	800	"	-	650×1400×1400	-	700×1400×1500
S 9	8920	"	9820	900	"	900	"	-	700×1500×1500	-	800×1500×1600
S 10	10080	"	11080	1000	"	1000	590	-	800×1600×1600	-	900×1600×1700

※風圧力での設計製品です。(昭和57年改正の建築基準法・同施行令の計算基準に従っています。)

※地耐力98kN/m²[10t/m²] (長期)の場合のコンクリート打ちの参考基礎寸法です。地耐力が異なる場合は弊社までご相談ください。

※全長は主柱パイプ長さにジョイントによる高さ加算分(45mm)を含めた長さです。

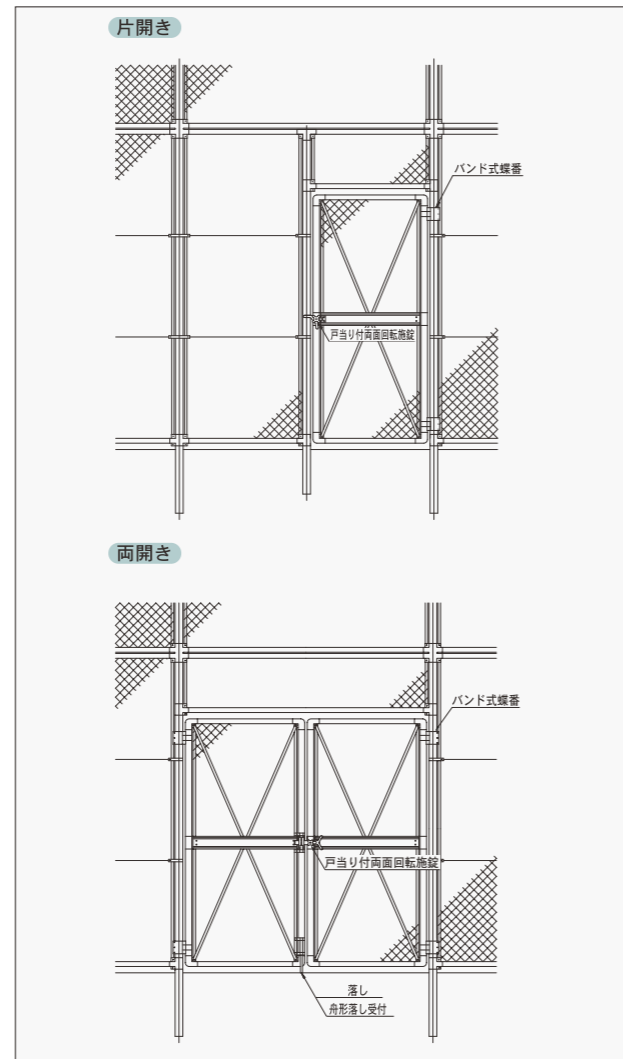
※S 4の控柱は4.0m毎です。ただし端末・コーナーには控付柱を必ず設けてください。S 5~S 10は全柱控付です。



くぐり門扉





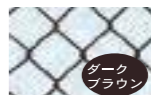
PC高尺フェンス くぐり門扉(片開き)



※施錠部の遊びにより、閉時でも門扉は若干前後に動きます。

PC高尺フェンス 金網(規格・カラー)

完全式菱形金網 (JIS G3552準拠)

金網種類	300g 亜鉛めっき鉄線	400g 亜鉛めっき鉄線	タフガード®マイルド スプリングネット 亜・アルミ・マグネシウムめっき鉄線	スプリングネット カラーハガネ鉄線 (300g/m以上めっきカラー線)	サンカラー鉄線 (3種めっきカラー線)	ビニル被覆亜鉛めっき鉄線
規格 (mm)	φ3.2×50・φ3.2×40 φ4.0×50	φ3.2×50・φ3.2×40 φ4.0×50	φ2.6×50・φ2.6×40	φ2.6×50・φ2.6×40	φ3.2×50・φ3.2×40	φ3.2×50・φ3.2×40 φ4.0×50
カラー	めっき色		 ライトグリーン  ローングリーン <カラーハガネ鉄線・サンカラー鉄線・ビニル被覆線>		 ダークグリーン <カラーハガネ鉄線・サンカラー鉄線のみ>	

※テニスコートに使用の場合には、網目40mmをご使用ください。(網目50mmを超えるとボールが抜ける恐れがあります。)
 ※金網選定の際には、スリムで高強度な「スプリングネット」の使用をおすすめします。スプリングネットについてはd.8の資料を参照ください。
 ※塗装品(特殊)に同名称のカラー金網を組みあわせる場合、金網部分と鋼材部分の色相が異なる場合があります。

PC高尺フェンス 設計上のご注意

- ①端尺スパン、コーナーおよび勾配については特にご指示ください。
- ②柱、胴縁、網張りバーの外装はJIS H8641(溶融亜鉛めっき)に示すHDZ40、ジョイント、ボルト・ナットはHDZ35を標準とします。
- ③鋼材関係は、めっきの上に高耐候性樹脂粉体塗装もできます。ご相談ください。
- ④足場等の関係でナット側から施工できない場合は、ボルト頭側から施工できる六角ボルト・ナットをご用意ください。
- ⑤ご使用前に裏表紙の『⚠注意』の項目をご覧ください。

PC高尺フェンス 組立時のご注意

実際に組み立てる前に、準備として以下のことを行ってください。金網寸法の許容差を最小限に是正し、図面寸法通りに正しく施工するために必要な工程です。

- ①主柱建込み前に地面に主柱2本を並べる。(実際の1スパン分を想定する)
- ②前もって金網に胴縁と網張りバーをセットしておいたパネルを上段から下段まで図面寸法通りにジョイントで主柱に仮に固定する。
- ③ジョイントの位置および基礎天端となる位置へ印を付ける。
- ④解体し、主柱を建込む。印をガイドにしてジョイント取付等を行う。



PC-S9



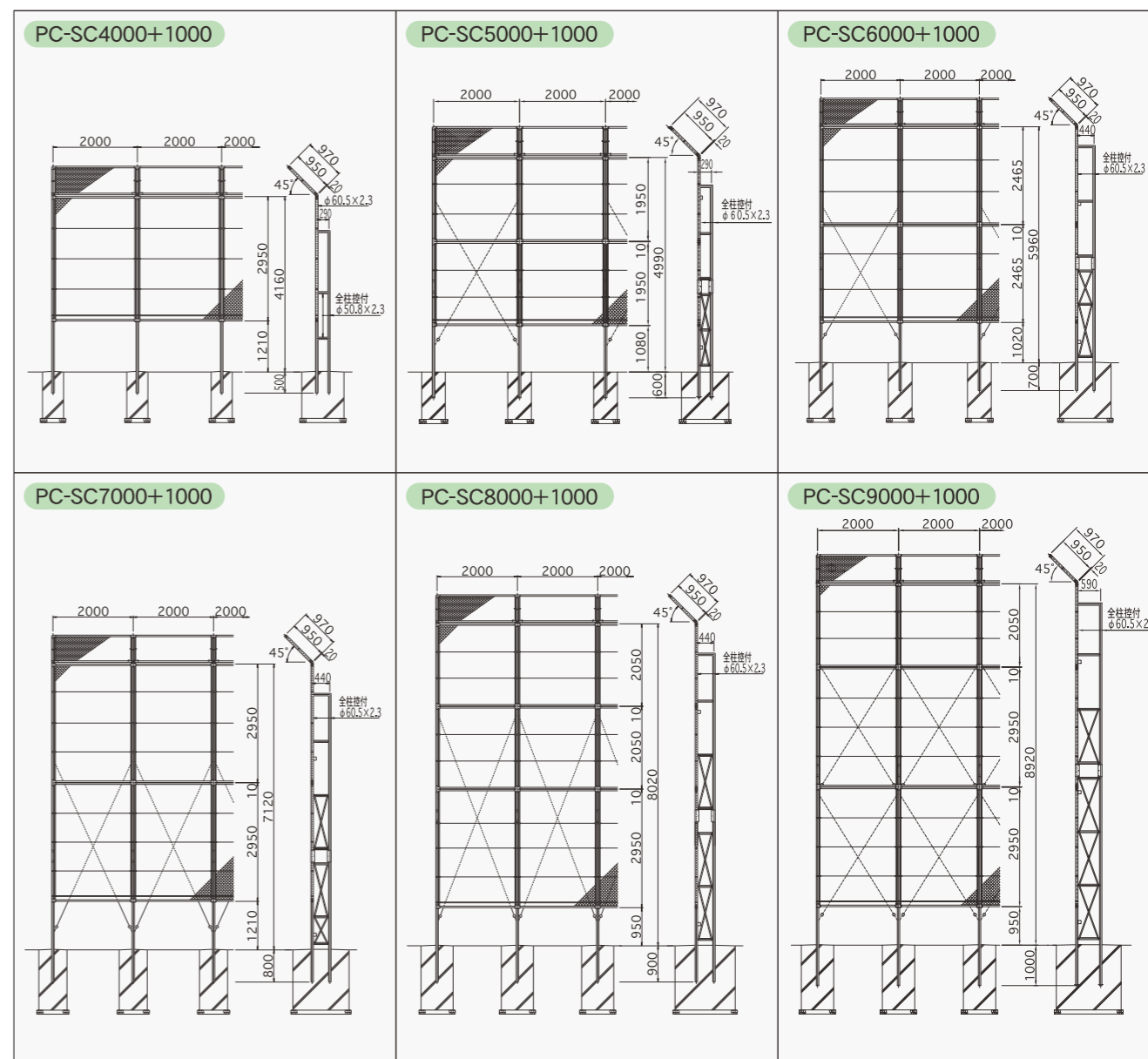
PC-S4



PC-S8



下部網なし PC-SC4000+1000～SC9000+1000



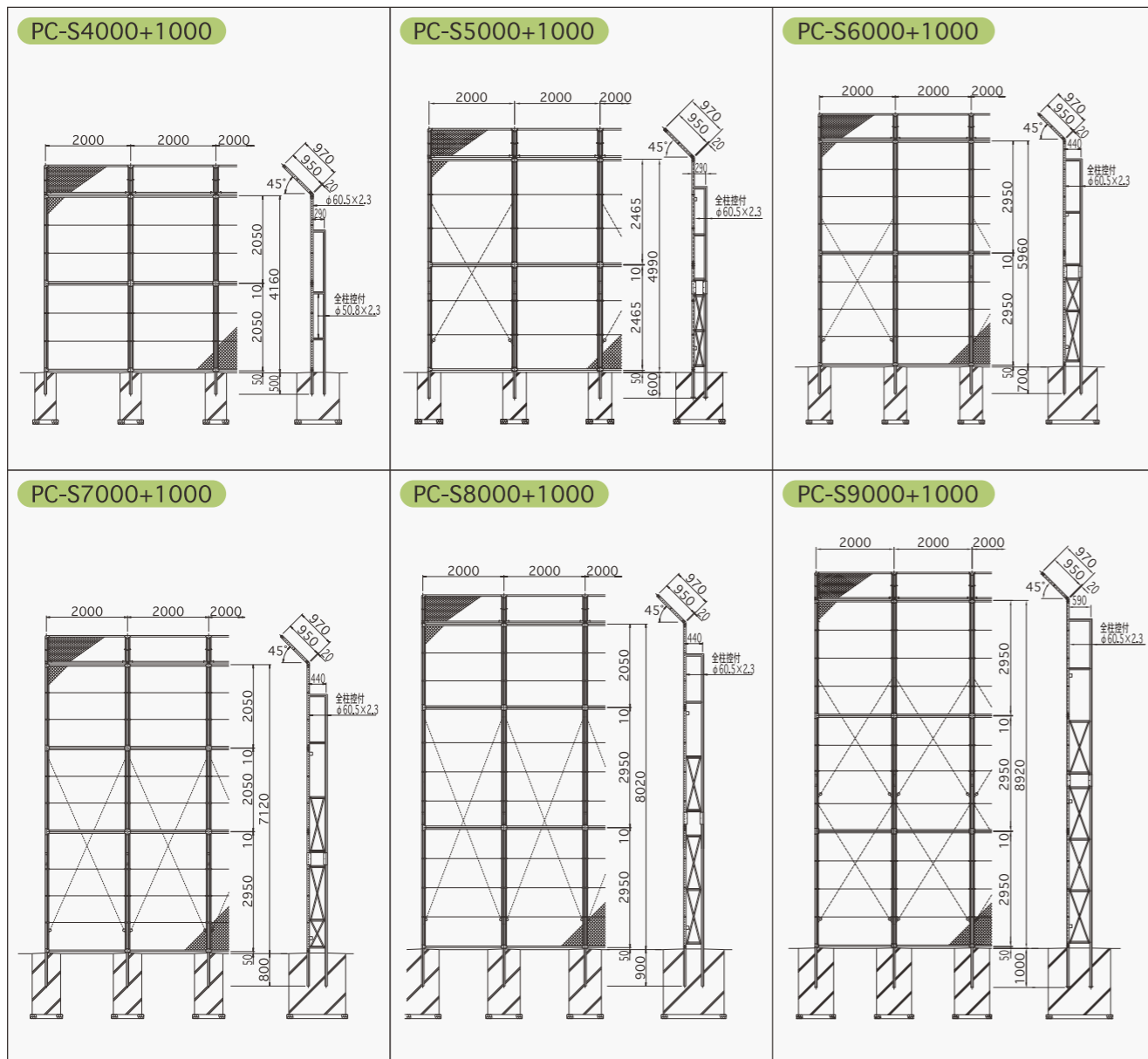
※基礎天端は、水勾配処理を行ってください。
 ※各規格の寸法、参考基礎寸法は下記の表を参照ください。
 ※詳細については別刷標準図集を参照ください。

規格・寸法・参考基礎 (沖縄地区は除く。)

呼称	寸法		主柱 (mm)		控柱 (mm)		参考基礎寸法 (mm)		
	高さ (mm)	幅 (mm)	規格	埋込	規格	埋込	金網規格		
							φ2.6×50 φ3.2×50	φ2.6×40 φ3.2×40	φ3.2×40
SC4000+1000	4160 (2950)	970	φ60.5×2.3	500	φ50.8×2.3	500	290	500×1000×1000	500×1000×1100
SC5000+1000	4990 (3910)	970	"	600	φ60.5×2.3	600	"	550×1100×1100	600×1100×1200
SC6000+1000	5960 (4940)	970	"	700	"	700	440	600×1250×1250	600×1300×1400
SC7000+1000	7120 (5910)	970	"	800	"	800	"	650×1400×1400	700×1400×1500
SC8000+1000	8020 (7070)	970	"	900	"	900	"	700×1500×1500	800×1500×1600
SC9000+1000	8920 (7970)	970	"	1000	"	1000	590	800×1600×1600	900×1600×1700

※風圧力での設計製品です。(昭和57年改正の建築基準法・同施行令の計算基準に従っています。)
 ※地耐力98kN/m²[10t/m²] (長期)の場合のコンクリート打ちの参考基礎寸法です。地耐力が異なる場合は弊社までご相談ください。

全面網張り PC-S4000+1000～S9000+1000



※基礎天端は、水勾配処理を行ってください。
 ※各規格の寸法、参考基礎寸法は下記の表を参照ください。
 ※詳細については別刷標準図集を参照ください。




規格・寸法・参考基礎 (沖縄地区は除く。)

呼称	寸法		高さ (mm)		支柱 (mm)		控柱 (mm)		参考基礎寸法 (mm)				
	垂直部	曲部	規格	埋込	規格	埋込	控間幅	金網規格		金網規格		金網規格	
								φ2.6×50 φ3.2×50	φ2.6×40 φ3.2×40	φ3.2×40	φ4.0×50	φ3.2×40	φ4.0×50
S4000+1000	4160	970	φ60.5×2.3	500	φ50.8×2.3	500	290	500×1000×1000	500×1000×1100				
S5000+1000	4990	970	"	600	φ60.5×2.3	600	"	550×1100×1100	600×1100×1200				
S6000+1000	5960	970	"	700	"	700	440	600×1250×1250	600×1300×1400				
S7000+1000	7120	970	"	800	"	800	"	650×1400×1400	700×1400×1500				
S8000+1000	8020	970	"	900	"	900	"	700×1500×1500	800×1500×1600				
S9000+1000	8920	970	"	1000	"	1000	590	800×1600×1600	900×1600×1700				

※風圧力での設計製品です。(昭和57年改正の建築基準法・同施行令の計算基準に従っています。)
 ※地耐力98kN/m²[10t/m²] (長期)の場合のコンクリート打ちの参考基礎寸法です。地耐力が異なる場合は弊社までご相談ください。

PCバックネット 金網 (規格・カラー)

完全式菱形金網 (JIS G3552準拠)

金網種類	300g 亜鉛めっき鉄線	400g 亜鉛めっき鉄線	タフガード®マイルド スプリングネット 亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっき鉄線	スプリングネット カラーハガネ鉄線 (300g/m以上めっきカラー線)	サンカラー鉄線 (3種めっきカラー線)	ビニル被覆亜鉛めっき鉄線
規格 (mm)	φ3.2×50・φ3.2×40 φ4.0×50	φ3.2×50・φ3.2×40 φ4.0×50	φ2.6×50・φ2.6×40	φ2.6×50・φ2.6×40	φ3.2×50・φ3.2×40	φ3.2×50・φ3.2×40 φ4.0×50
カラー	めっき色		  <カラーハガネ鉄線・サンカラー鉄線・ビニル被覆線>  <カラーハガネ鉄線・サンカラー鉄線のみ>			

※金網選定の際には、スリムで高強度な「スプリングネット」の使用をおすすめします。スプリングネットについてはp.8の資料を参照ください。
 ※塗装品(特殊)に同名称のカラー金網を組みあわせる場合、金網部分と鋼材部分の色相が異なる場合があります。

PCバックネット 設計上のご注意

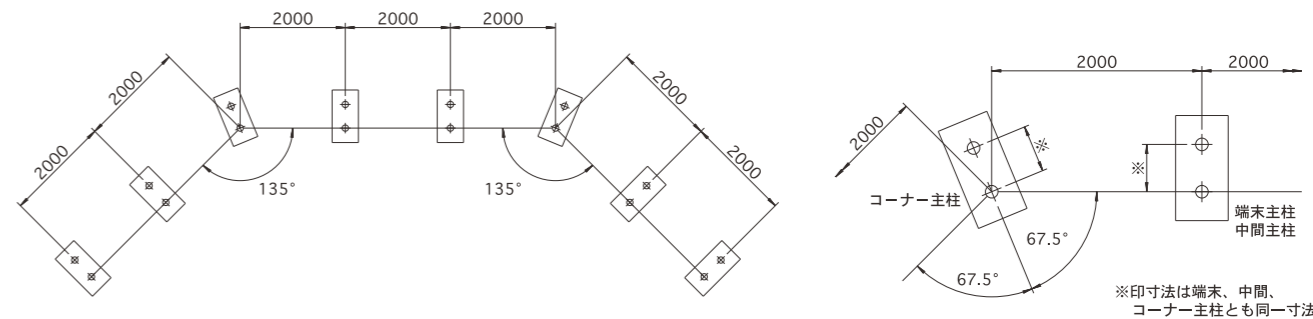
- ①端尺スパン、コーナーおよび勾配については特にご指示ください。
- ②柱、胴縁、網張りバーの外装はJIS H8641(溶融亜鉛めっき)に示すHDZ40、ジョイント、ボルト・ナットはHDZ35を標準とします。
- ③鋼材関係は、めっきの上に高耐候性樹脂粉体塗装もできます。ご相談ください。
- ④足場等の関係でナット側から施工できない場合は、ボルト頭側から施工できる六角ボルト・ナットをご用意ください。
- ⑤ご使用前に裏表紙の『▲注意』の項目をご覧ください。

PCバックネット 組立時のご注意

実際に組み立てる前に、準備として以下のことを行ってください。金網寸法の許容差を最小限に是正し、図面寸法通りに正しく施工するために必要な工程です。

- ①主柱建込み前に地面に主柱2本を並べる。(実際の1スパン分を想定する)
- ②前もって金網に胴縁と網張りバーをセットしておいたパネルを上段から下段まで図面寸法通りにジョイントで主柱に仮に固定する。
- ③ジョイントの位置および基礎天端となる位置へ印を付ける。
- ④解体し、主柱を建込む。印をガイドにしてジョイント取付等を行う。

参考平面図



※印寸法は端末、中間、コーナー主柱とも同一寸法

施工要領

PCフェンス SERIES

機能を十分に発揮するために正確な施工を行ってください。

※矯正の際は必ずゴムハンマーを使用するか、当木をして叩いてください。
 ※施工時、製品は直接地面に置かないで敷物を施してください。

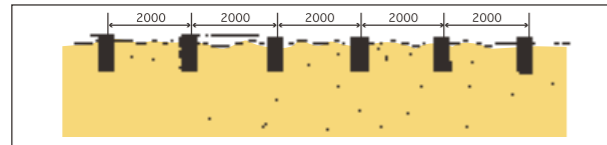
標準水平部

※半径30m以上の円弧には中間ジョイントにて対応できます。
 ※一律勾配角度10度までは中間ジョイントにて対応できます。

1 基礎・埋込み穴

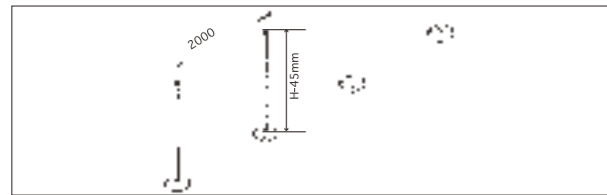
レベルを基礎上端にあわせませす。

基礎にあける埋込み穴は、芯々2000mmに正確にあけてください。
 埋込み穴の径はPCフェンス80~100mm、高尺フェンス・バックネットは120~150mmにしてください。



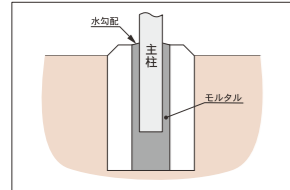
2 支柱の建込み

支柱の高さはフェンスの高さより45mm低く建込みます。



3 モルタル詰

水平・通りを正して、モルタル詰めを行い、水勾配をつけてください。



注意

基礎のスリーブは必ず抜き取り、モルタルを充てんしてください。砂・空ねり等では柱の強度が保てません。

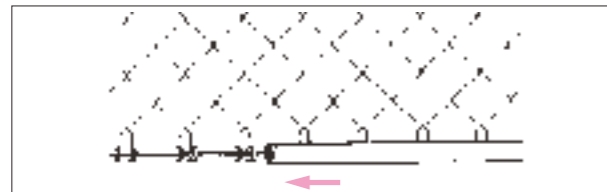
4 金網調整

金網の張り具合の調整を行いリングをそろえてカ骨線の片方を曲げてから通します。



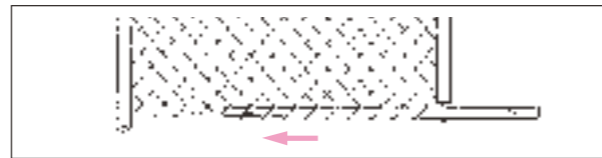
5 胴縁組み込み

カ骨線を曲げた方から胴縁を押し込みます。胴縁は水抜穴があいた方が下側です。



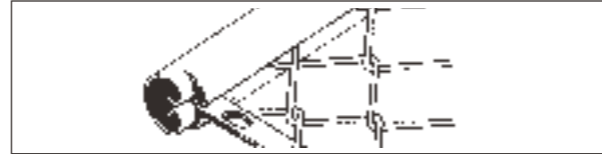
6 網張りバー

網張りバーを通します。



7 離脱防止

上胴縁の両端から約15mmのところに切込みがあるので、切込みをペンチで曲げ込み閉鎖します。



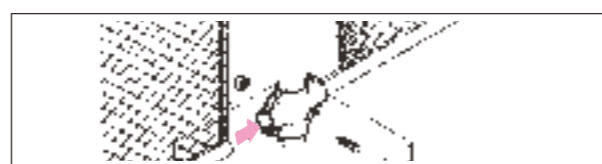
8 上部ジョイント組み込み

網張りバーの穴と一緒にか南通させます。



9 下部ジョイント組み込み

あらかじめ下部ボルトを仮止めしておいた下ジョイントに胴縁をはさみ込んで、上ボルトを網張りバーの穴と一緒にか南通させ、上下共本締めします。



10 中番線通し、バンド取り付け

中番線は通して、中間柱の前後1~1.5目から外に出し、柱に沿わせ少し押し込んで丸味をつけ、バンドを取り付けます。
 (仮止め→本締め) (勾配の場合は直線切りを使用します。)
 (中番線の過度の張り過ぎは柱が湾曲する恐れがあります。)

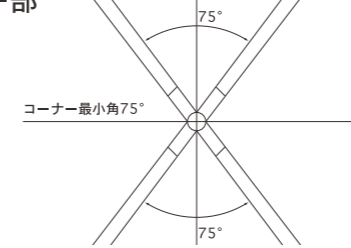


11 チェック

全スパンの組み立て完了後、前後左右の振れ、水平・通りを正してボルト・ナットの締め付けを点検します。

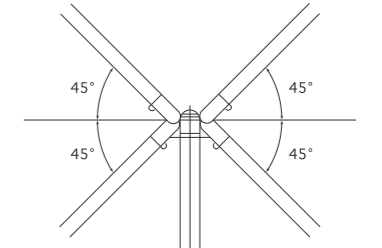
コーナー・勾配部

コーナー部

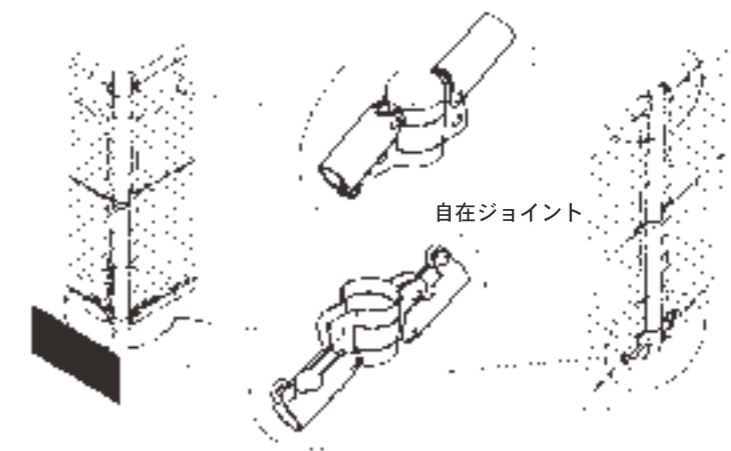


60度~75度まではボルト・ナットの丸頭を内側に向けてご使用ください。
 60度以下のコーナーについては別途ご指示ください。

勾配部

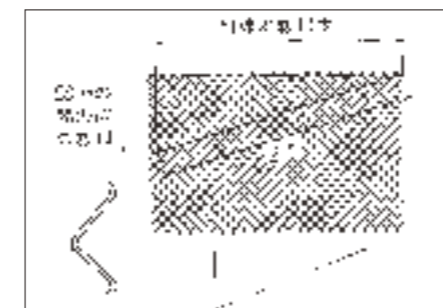


使用可能範囲 上勾配角度45度まで
 下勾配角度45度まで

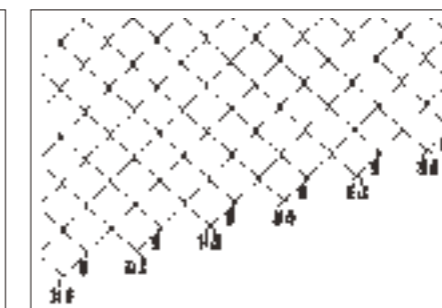


勾配用金網の調整例

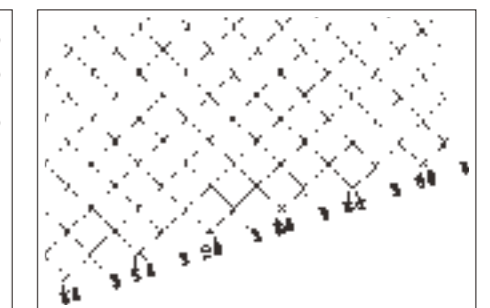
[2mで58cmの落差の場合]



必要な列線本数はφ3.2×56mmでは水平の場合より2本前後余ります。必要列線本数を44本と仮定すると落差間の辺数14で割ると≒3.1です。
 (ビニル被覆垂鉛めっき鉄線の場合)



列線を約3本毎に反屈曲(1辺)ずつ繰り出します。



繰り出し終わると勾配に沿うようリングの巻き加減、首の曲げ付け等をして調整します。

施工例



施工例



! 注 意

- 弊社の一般タイプのフェンス製品は、強度について配慮の上、設計・製造しておりますが、原則として平地での囲障としての使用を目的とした製品です。この目的以外での使用は思わぬ事故につながる可能性があります。
- 屋上・高台・その他強風地域で使用しないでください。(必要に応じた強度検討を致しますので、弊社までご相談ください。)
- フェンスに看板・防風ネット・つた・その他空気抵抗が生じるものを取り付けしないでください。(必要に応じた強度検討を致しますので、弊社までご相談ください。)
- 積雪地域での使用の場合は、積雪の状況に応じた強度検討を致しますので、弊社までご相談ください。
- 手すり・ガードフェンス・転落防止柵・その他特別な強度を必要とする目的に使用する場合には、別途製品を用意しております。
- 使用環境により品質劣化が進みやすくなりますのでご注意ください。設置場所環境(公害・塩害・水害等)を調査の上、仕様を決定してください。
- 亜鉛めっき製品は、屋外に積み重ねたままの保管やシート掛けしたままの保管をすると、雨水との長時間の接触や多湿による結露などにより白さびが発生し、製品外観の低下につながる可能性があります。ただし、白さびによる耐食性への影響はほとんどありません。(JIS H8641参照)
- 腐食性ガス・海水・砂塵にさらされるような環境では、短期間のうちに使用に耐えない状態になることがあります。
- グラウンド等、土の転圧時に塩水または塩化カルシウム(通称塩カル)を散布する場合があります。この時めっきに付着すると、短時間でめっき表面が腐食され寿命が短くなります。
- フェンス柱地際の処理はモルタル充てんを十分にし、基礎天端に水切り勾配を必ず付けてください。また基礎天端が土中に埋まる場合にはコンクリートで保護し水切り勾配を付けるか、弊社指定の保護テープを巻いて土との接触がないようにしてください。地際に水が溜まったり、柱が土と直接接触した状態では、めっきや塗装が早期に侵されます。(基礎天端が土中に埋まる場合には強度検討を致しますので弊社までご相談ください。)
- 弊社製品に関するご不明点の確認・ご相談等に関しましては、各地区の弊社営業担当者が対応させていただきます。何なりとお問い合わせください。

[製 造 品 目]

ユニフェンス	アルフェンス	FMフェンス	ピケットフェンス
エバニューフェンス	目かくしフェンス	遮音フェンス	PCフェンス
バックネット	防球窓枠フェンス	S・P防球フェンス	ガードパイプ
ガードフェンス	格子フェンス	カーस्टップ	メッシュトレリス
ユニトレリス	チェーンフェンス	ガーデンフェンス	ゴミ・ステーション
手すり	積雪地用フェンス	ストーンガード	防風防雪柵
高らんパイプ	歩鋼板	門扉・引戸	鉄網設計製品

WIRE NET & FENCE



朝日スチール工業株式会社

お問い合わせ、ご相談は下記までお願いいたします。

本 社	☎(087)833-5151(代)	〒760-8529 高松市花園町1丁目2番29号
四国営業部直通	(第1課) ☎(087)835-8730 FAX(087)835-8720 (第2課) ☎(087)835-8700 FAX(087)835-8720	
中国営業部直通	(第1課) ☎(087)835-8820 FAX(087)835-8835 (第2課) ☎(087)835-8850 FAX(087)835-8835	
東 京 支 社	(第1営業部) ☎(03)3239-4815 FAX(03)3239-4720 (第2営業部) ☎(03)3239-4818 FAX(03)3239-4720 (第3営業部) ☎(03)3239-4840 FAX(03)3239-4460	〒102-0084 東京都千代田区二番町5-6 (あいおいニッセイ同和損保二番町ビル)
大 阪 支 店	(第1営業部) ☎(06)6244-1910 FAX(06)6244-1911 (第2営業部) ☎(06)6244-1920 FAX(06)6244-1921 (第3営業部) ☎(06)6244-1950 FAX(06)6244-1951	〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町3-5-12 (御堂筋本町アーバンビル)
九 州 支 店	(第1営業部) ☎(092)471-7621 FAX(092)471-7623 (第2営業部) ☎(092)471-7622 FAX(092)471-7624	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-3-1 (日本生命博多南ビル)
名古屋営業所	☎(052)932-3500 FAX(052)932-3510	〒461-0001 名古屋市東区泉2-27-14 (関電不動産高岳ビル)
仙台営業所	☎(022)263-1790 FAX(022)263-1791	〒980-0021 仙台市青葉区中央3-2-1 (青葉通プラザ)
工 場		多度津・西港・丸亀・高南・香東・坂出